

「さっぽろ地域コミュニティ検討委員会」報告書の概要

本書は、平成28年8月に「さっぽろ地域コミュニティ検討委員会」が作成した報告書から、地域コミュニティの活性化に向けた提案を中心に抜粋し、概要をまとめたものです。

なお、委員会における検討の経過や詳細につきましては、報告書の本編の他に、札幌市のホームページでも公表していますので、是非ご参照下さい。

※ コミュニティとは、地縁、血縁、文化的背景、価値観などに基づく共同体をいい、そのうち、地縁的な要素の大きいものを地域コミュニティという（出典：「札幌市まちづくり戦略ビジョン（平成25～34年度）」）。

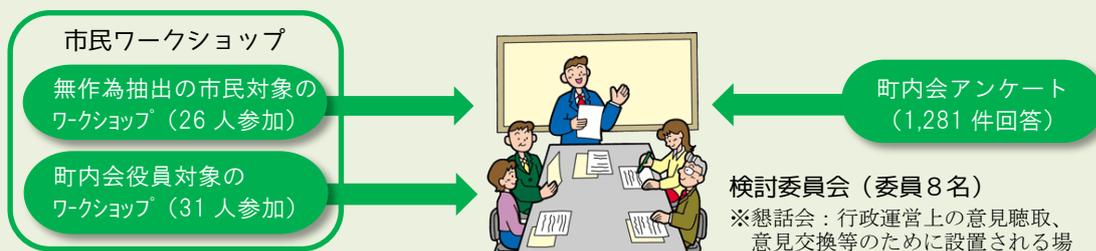
※ 以下のホームページに検討内容を掲載しています。

<http://www.city.sapporo.jp/shimin/jichi/gugenka/communitykentouiinkai/communitykentouinnkai.html>



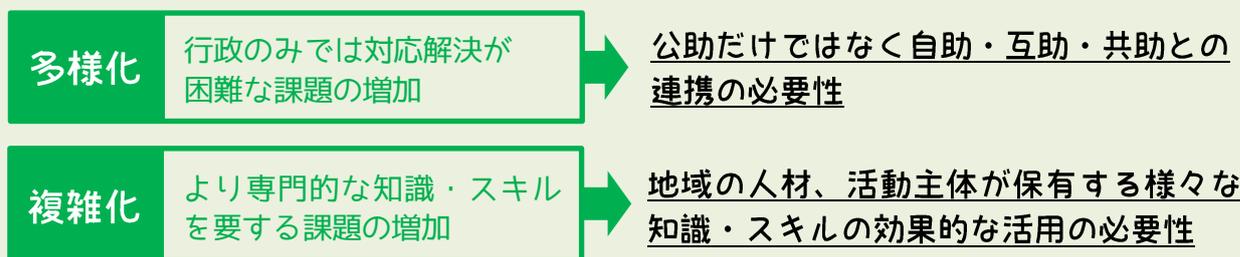
さっぽろ地域コミュニティ検討委員会とは？

「さっぽろ地域コミュニティ検討委員会」は、秋元市長の公約に基づき、平成27年11月に、地域コミュニティの活性化に関する検討を目的として設置された懇話会※で、学識経験者や地域活動の関係者など公募2名を含む8名の委員で構成されています。検討委員会では、市民ワークショップや町内会・自治会へのアンケートの結果も踏まえながら、計6回の会議を開催し検討を重ね、その結果を報告書として取りまとめ、平成28年8月に市長に報告しました。

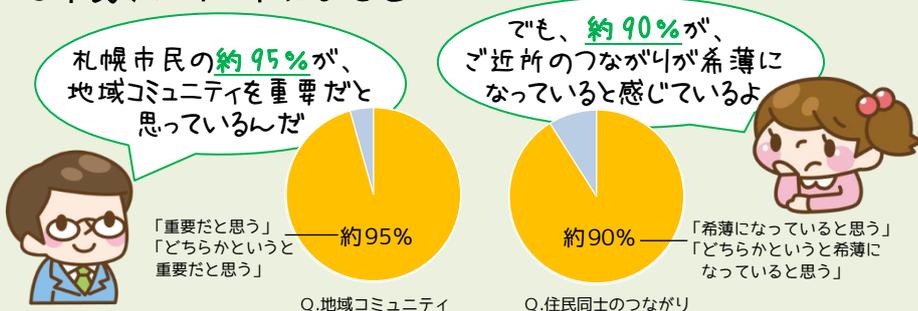


地域コミュニティが抱える課題

●地域課題は、多様化・複雑化している！



●市民アンケートによると…



地域コミュニティの活性化が必要！

提案の概要

検討委員会では、地域コミュニティを活性化するために必要なことについて、「担い手・人材」「活動の場」に分けて、様々なアイデアを提案しています。

提案テーマ

出会い つながる 地域の絆

「出会い」＝「きっかけづくり」

住民個人の活動への参加促進

「つながる」＝「連携」

団体同士の連携を深める

『地域の絆』
日頃からのコミュニケーション

地域コミュニティの活性化



【地域コミュニティ活性化に向けて必要なこと】

- 『担い手・人材』『活動の場』が重要なキーワード
- 『担い手・人材』については「参加促進・きっかけづくり」、「連携」、「ノウハウ蓄積」がそれぞれ重要

【活性化のキーワード】

担い手・人材

参加促進
きっかけづくり

連携

ノウハウ蓄積

活動の場

① 担い手・人材

地域コミュニティを活性化するためには、その活動を担う人材はもちろん、その活動に参加する人、活動を支える人、それら多くの人材が大切です。



委員のコメント

個人それぞれが、地域への関心や愛着を持ち、自分たちの生活が地域の人たちの地道な活動によって支えられていると実感することが、地域活動への参加や協力につながる。



委員のコメント

地域の行事については参加者が固定化している状況もあり、新たな参加者を増やすことが必要。転入者や若者は、活動内容をよく理解していないために、参加をためらう場合も多いという声もある。

ア 参加促進・きっかけづくり

	取組	アイデア
1	意識づけ・関心を高める取組	地域情報をまとめたフリーペーパー作成。大学入学時にPRを。参加についての理念を定めた条例※や宣言。
2	活動の見える化・情報発信	会費の使い方などをきちんと伝えるチラシの作成サポート。町内会のIT化。地域のロゴやキャラクター作成。
3	負担が軽いライトな参加を受け入れる仕組み	時間があるときに参加できる仕組み。町内会の組織や体制の見直し。
4	地域活動へのインセンティブ	公的施設の割引。町内会の厚生制度。学生がメリットと感じる仕組み。活動団体への金銭的補助。
5	世代・対象に応じた参加の仕組みや呼び掛け	若い人が地域でやりたいことを実現する仕組み。退職者や高齢者の参加促進。集合住宅入居者の参加促進。

※（仮称）町内会加入促進条例について：政令市では4市が類似条例を制定しているが、いずれも町内会への参加や加入を義務付けてはならず理念的なものである。札幌では「自治基本条例」と「市民まちづくり活動促進条例」で既にまちづくりに関する基本的な理念は定められていることから、これらの条例の周知を図ることが重要。まずは、具体的な施策の充実が必要であるが、条例を新たに制定する場合においても、その機運の高まりなど、地域コミュニティの主役である市民の声に耳を傾けることが大切である。

イ 連携

	取組	アイデア
1	各主体が連携するためのコーディネーター役が必要	継続的に地域に関わるコーディネーターの育成・確保。まちづくりセンターのコーディネート機能の強化。
2	地域や団体間のマッチング促進	地域や団体間の交流会の実施など。地域や団体を結びつけるシステム。近隣町内会の連携促進。
3	NPO・企業等の得意分野を生かした地域協力の促進	NPOと地域をつなぐ取組の促進。企業のCSR（社会貢献活動）の促進、参加のルールづくり。地域活動の社会的評価の向上。



委員のコメント

・地域のNPOや企業が地域活動に参加しやすい環境になることが必要。最近では、企業も社会貢献活動に熱心で、地域のために何かできればと思っていることも多いはず。その熱意を地域活動と上手くマッチングすることが必要。

ウ ノウハウ蓄積

	取組	アイデア
1	ほかの町内会や地域の活動事例・ノウハウの共有、意見交換・交流の促進	地域の活動事例やノウハウの共有化。ほかの町内会や団体との意見交換、情報共有の機会創出。
2	ノウハウを持った専門性のある人材の育成・派遣等	新規役員等への知識・ノウハウ提供など人材の育成。専門性を持ったアドバイザーの派遣や実践支援。



委員のコメント

・隣の町内会でも活動内容を知らなかったり、役員になると相談する人も少なくなるので、地域を超えて交流できる機会が必要。また、役員の引継ぎが円滑にいくよう、ノウハウを学ぶ勉強会などがあると良い。



② 活動の場

地域が活性化するためには人と人が顔を合わせて話したり交流することが大切です。日常の会議の場、普段からの交流の場、イベントを行う場など、「活動の場」が必要です。



委員のコメント

・今後、高齢化がより進むことを考えると、小学校単位よりもっと小さい単位で集まれる場所があれば、活発な地域活動につながる。例えば、個人の家の空いている部屋で交流サロンを開くなどの取組がしやすくなる仕組みなどがあると良い。

	取組	アイデア
1	公共施設等の活用	学校の空き教室等を地域の会議などで有効活用。公園等の公の施設の活用。
2	既存施設の地域活用促進	事務所・空き店舗・空き家が地域活動に有効に活用される仕組み。市民集會施設等がより広く利用されるような仕組み。



この他にも色々な提案をしています！
報告書の本編をご参照ください。

検討委員会の概要

委員構成（8名）※50音順

飯田 俊郎 青森公立大学経営経済学部教授（H28.3まで札幌国際大学）、＜副委員長＞
 五十嵐 秀子 北区 幌北連合町内会副会長・女性部長
 石村 実 もみじ台「地域の茶の間」代表、公募委員
 喜多 洋子 地域コーディネーターかどま〜る代表
 鈴木 克典 北星学園大学経済学部教授、＜委員長＞
 町田 信一 北海道マンション管理組合連合会中央地区連絡協議会会長
 山内 睦夫 中央区 桑園地区連合町内会会長
 龍滝 知佳 くさぶえ町内会青年部長、公募委員

年 月	地域コミュニティ検討委員会	付帯の取組
H27年11月	○第1回会議（11/5） 地域・町内会の現状と課題	
H27年12月	○第2回会議（12/17） 地域コミュニティが担うべき役割・あり方	○市民ワークショップ【無作為抽出の市民対象】（12/19） 目指すべき地域コミュニティの姿と各主体の役割
H28年2月	○第3回会議（2/12） 地域コミュニティ活性化のために必要な取組と課題	○市民ワークショップ【町内会役員対象】（2/20） 地域課題に対応するために必要な取組
H28年3月	○第4回会議（3/23） 地域コミュニティ活性化のために必要な施策	○町内会・自治会に関するアンケート調査（3月） 町内会の現状把握
H28年6月	○第5回会議（6/8） 報告書についての検討	
H28年7月	○第6回会議（7/12） 報告書の最終確認、調整	



秋元札幌市長に報告しました（平成28年8月29日）

検討委員会では、市長に報告書を手渡し、検討の経過や報告書の内容について説明しました。



みんなが地域のことを考え、
住みよいまちにしていかなきゃ
いけないね



さっぽろ地域コミュニティ検討委員会 報告書（概要版）

平成28年（2016年）8月発行

さっぽろ地域コミュニティ検討委員会

<http://www.city.sapporo.jp/shimin/jichi/gugenka/communitykentouiinkai/communitykentouinnkai.html>
 （事務局）札幌市役所 市民自治推進課 〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 TEL：011-211-2253 FAX：011-218-5156